

令和 6 年 6 月 16 日現在

機関番号：32649

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2021～2023

課題番号：21K20022

研究課題名（和文）大正時代における日本文学と教育との関係

研究課題名（英文）Japanese Literature and Education in the Taisho Period

研究代表者

ヴァン・ロメル ピーテル (Van Lommel, Pieter)

東京経済大学・コミュニケーション学部・特任講師

研究者番号：70909291

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は「大正時代における日本文学と教育との関係」という研究課題名で、学術研究において見落とされがちである教育雑誌やその掲載文学を掘り起こし、整理して分析した。この作業によって、大正期の小学校教員が読者として受容し、また執筆者として方向づけたメディアと文学の特徴と社会的意義を究明した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究はこれまで十分に研究されていない資料（教育雑誌とその掲載小説）を調査することで、密接な関係を持つ近代文学と近代教育の成立および変遷過程を考え直すことを可能にした。資料発掘や学際的な研究方法に立脚した本研究は、文学研究、教育史研究、メディア研究、ジェンダー研究に貢献することができたと考えられる。なお、現在のテキスト文化、教育、メディアの形態について公平かつ冷静に考察するためには、その歴史を把握することが重要な課題であろう。

研究成果の概要（英文）：The title of this research project is "The Connection between Japanese Literature and Education in the Taisho Period." By categorizing and analyzing hitherto largely unexplored educational magazines and the literature published in them, this research clarified the characteristics and social functions of the media and literature that elementary school teachers in the Taisho period interacted with as readers and contributed to as writers.

研究分野：文学研究、教育研究、メディア研究

キーワード：教育史研究 小学校教員 女性教員 教育雑誌 教育ジャーナリズム 教育小説

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

「大正デモクラシー」と称される通り、大正時代(1912-1926)は近代教育と近代文学が多様な形で発展した時代であった。個人や自由の価値を称揚するいわゆる「新教育運動」は児童を教育の中心にする教育改良運動として、幅広く教育的な実験を促した。同時に文学の主流は、「無理想無解決」を柱とする自然主義から、人道主義、国際主義、耽美主義、モダニズム、プロレタリア文学といった新たな理想を掲げる多様な形式へ転換した。大衆文学と児童文学の生産も盛んとなった。こうした大正時代における教育ないしは文学については、それぞれの変遷過程を対象とする先行研究は豊富であるものの、文学と教育との間の複雑かつ密接な関係を探る研究は驚くほど少ない。確かに国語教育(綴り方教育)や児童文学は文学と教育が交差する研究分野として一定の蓄積があるが、特に教師たち自身が重要な文学読者層を形成し、文学の受容と生産に熱心に取り組んだ事実に関しては研究がほぼ未開拓のまま残されている。

2. 研究の目的

本研究は小学校教員という特定の読者層と創作者層を研究の対象とし、教育雑誌および文学が社会において演じた多様な役割を究明することによって、大正期の教育史、文学史、メディア史、社会史を総括的に読み直す試みである。

3. 研究の方法

本研究の目的は以下の二つの課題に下位区分される。

課題1: まず、大正期の教員たちの生活と読書傾向を可能な限り具体的に調査する。そのため、教育史研究に学びつつ、教育雑誌の記事や投稿欄を詳細に検討する。

課題2: 大正の教育雑誌とその掲載文学作品の特徴を分析する。『教育実験界』(1898-1923)と『教育学術界』(1899-1939)と『教育の世紀』(1923-1928)といった代表的な民間教育雑誌を三誌選び、各号を精読し、その構成、編集志向、読者層、掲載文学作品を解明する。青年教員を主たる読者層とし、教育の実践を重視した、概ね文部省の教育方針に忠実な『教育実験界』と、学術研究や理論、中等教員文部省検討試験に関する情報を内容の中心とし、明治後期に言論と考察の自由を擁護した『教育学術界』、新教育思想を積極的に唱道し、理想に燃えた『教育の世紀』はそれぞれ異なったジャーナリズムと文学活動を発展させ、文学活動を重視した媒体として、大正期に隆盛を極めた教育ジャーナリズムの多様性を表すと思われる。各雑誌がいかに教育と社会について報道したか、教員たちの文学受容と創作に対していかなる刺激や方向付けを与えようとしたのかを明らかにする。

4. 研究成果

本研究の成果は以下の通りである。

まず、近代教育の普及や教員層の増加を教育史的背景に、大正期における教育雑誌が明確な専門化を見せることが分かった。明治期の主要な教育雑誌は多くの場合に総合雑誌の性質を帯び、充実した社説欄や文学欄を設けていたが、たとえば大正期の雑誌『教育学術界』は社説欄を一時的に停止し、文学作品の掲載も止め、学術内容に重点を置いた。国語や数学、すなわち一つの教科だけに内容を絞る雑誌もこの時期に創刊され始めた。一方では、新教育運動の進歩的な精神を唱道する目的で発行される雑誌は、文学作品を定期的に掲載した。新教育運動が文芸・芸術を人間の重要な側面として認識したためであろう。すなわち、教育ジャーナリズムの専門化とともに、文学が果たす役割も変遷していった。

また、大正時代の新教育運動を代表する教育雑誌『教育の世紀』を主な題材とし、第一次世界大戦後、明確に社会運動的動機をもつようになった教育ジャーナリズムの新たな実態を究明した。『教育の世紀』は近代教育の成立や普及を支援することを主な目的とした明治期の教育雑誌とは異なり、人間の平等を唱え各児童の個性を尊重し、生徒の自発的で自然な成長を支える革新的な教育の発展を促す媒体であった。また、教育の革命を奨励することで、社会そのものを変える試みでもあった。

このように、本研究は教育雑誌の歴史をたどることによって、教育ジャーナリズムの誕生と変遷過程を明治時代から大正時代まで究明した。教育ジャーナリズムは現在「ジャーナリズム」の一種として認められていないため、研究もほとんどされない。しかし、本研究は教育ジャーナリズムの先行研究を踏まえ、教育雑誌『教育界』、『教育実験界』、『教育学術界』、『教育の世紀』を主な資料とし、教育ジャーナリズムが明治時代から大正時代まで演じた多様な役割を明確にした。教育雑誌は政府の教育政策を支えた媒体であったが、同時にそれぞれ異なった編集方針をとり、新しい教育思想も導入し、教員たちの間のコミュニケーションの場となり、近代教育と近代社会の批判的な問い直しも可能にしたゆえに、まさに「ジャーナリズム」の機能も果たしたのである。

本研究はさらに女性の小学校教員に焦点を当て、教育雑誌の記事や投書、短編小説を通して、

女性教員の社会的立場を検討した。女性教員は女性一般と同様に厳しい差別の対象にされていたが、女性教員の比率が全小学校教員の25%以上まで上がった明治後期と大正初期において、女性教員の役割も徐々に認められるようになった。本研究は小学校の男性教員と女性教員による証言も発掘し、各雑誌において女性教員に対する態度がいつ、どのように変遷したかということを克明に描き出した。

研究期間全体を通じて、『教育実験界』『教育学術界』『教育の世紀』が提示したジャーナリズムおよび文学活動を総合的に捉えただけではなく、同誌の記者たちの間で行われた論争や明確に異なった見地にも注目し、各雑誌の複雑さや多面性に光を当てた。この研究結果については国内外の学会で発表を行った。これによって、日本文学、教育、メディア、社会全体についての理解を深めることができたと考えられる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Pieter Van Lommel
2. 発表標題 Educational Journalism and the Position of Female Elementary School Teachers in Taisho Japan
3. 学会等名 Association for Asian Studies 2024 Annual Conference (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Pieter Van Lommel
2. 発表標題 More Than Good Wives and Wise Mothers: The Rise of the Female Teacher in Late Meiji and Early Taisho Japan
3. 学会等名 Twenty-Ninth Japan Studies Association Conference (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 ヴァン・ロメル・ピーテル
2. 発表標題 近代日本における教育ジャーナリズムの実態
3. 学会等名 東アジア藝文書院・ジャーナリズム研究会 第8回研究会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 ピーテル・ヴァン・ロメル	4. 発行年 2023年
2. 出版社 勁草書房	5. 総ページ数 472
3. 書名 「田舎教師」の時代ー明治後期における日本文学・教育・メディア	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------